

平成27年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成27年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 マアナゴ

学名 *Conger myriaster*

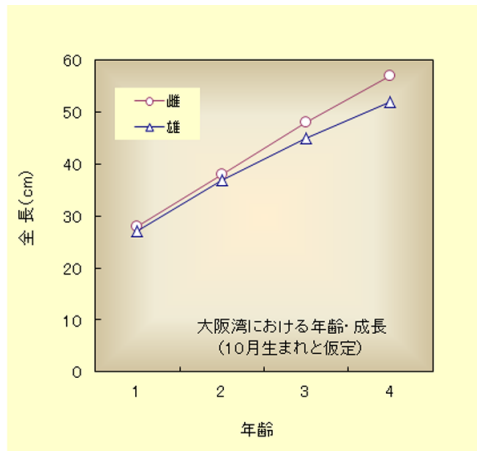
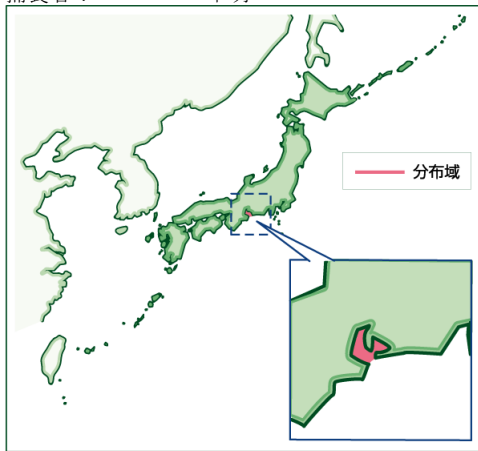
系群名 伊勢・三河湾

担当水研 増養殖研究所



生物学的特性

寿命： 不明（3歳を超えて湾内にとどまる個体は少ない）
成熟開始年齢： 不明（雌雄とも成熟個体が見つかっていないため）
産卵期・産卵場： 産卵期の詳細は不明、産卵場の一つが沖ノ島島南方の九州パラオ海嶺付近に確認されているがその他は確認されていない
索餌期・索餌場： 周年、伊勢・三河湾
食性： 稚魚は小型の底生生物、成長につれエビ類、魚類、軟体類など多様化・大型化する
捕食者： 不明



漁業の特徴

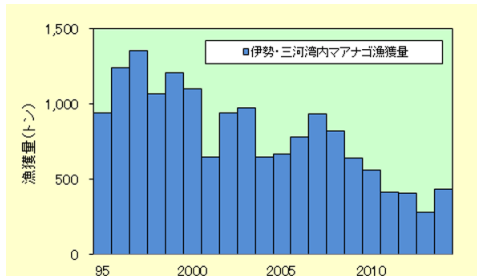
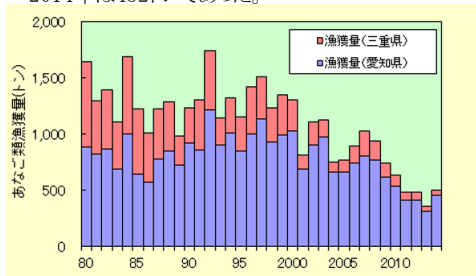
伊勢・三河湾における漁獲は主に、小型底びき網漁業（小底）、かご漁業により行われている。伊勢湾の三重県所属の小底の漁場は、湾奥部と湾口部を中心に、伊勢湾全域に形成される。三重県のかご漁業の漁場は、沿岸に沿って広く形成される。愛知県においては、知多地区の漁獲量が多い。また、本種の仔魚であるレプトケファルス（のれそれ）は、船びき網により混獲されている。



マアナゴの仔魚（レプトセファルス）は「のれそれ」と呼ばれ、春季に湾内に来遊してきて船びき網などで混獲される。産卵場の一つが沖ノ島島の南方に確認されており、「のれそれ」は南方海域から沿岸域に回遊してくると考えられるが、回遊経路などの詳細は不明な点が多い。

漁獲の動向

愛知県及び三重県のあなご類の漁獲量は、1980～2003年は概ね1,000～1,500トンで推移していたが、2004年以降減少傾向にある。評価対象である伊勢・三河湾内のマアナゴ漁獲量（「あなご類」の漁獲量から外海側の漁獲量を差し引いたもの）は、1995年～2000年までは概ね1,000トン前後で推移していたが、2011年以降は500トンを割り込み、2014年は432トンであった。



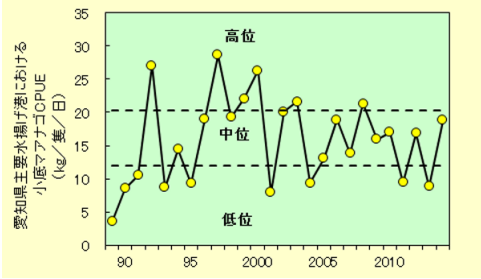
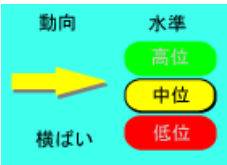
資源評価法

小底のマアナゴCPUEを資源量指標値とし、資源状態を判断した。その他、2県の生物情報収集調査、標本船調査、漁場一斉調査ならびに新規加入量調査の結果も参考とした。

資源状態

小底のマアナゴCPUEは、数年周期で増減を繰り返している。過去26年間の資源量指標値の最大値と最小値間を三等分して水準を判断すると、2014年は18.8なので中位、動向は過去5年間（2010～2014年）の資源量指標値の推移から横ばいと判断した。伊勢・三河湾で漁獲されるマアナゴの主体は前年に仔魚（のれそれ）として湾内に来遊した

年級と考えられる。2013年が低位水準だったのは、2012年に「のれそれ」の来遊量が少なかったことが影響していると考えられる。2015～2016年にマアナゴの漁獲主体となる2013～2014年の「のれそれ」の来遊量は若干の増加傾向にある。



管理方策

資源状態が中位・横ばいと判断されることから、ABC算定規則2-1)に基づき、2016年ABClimitを算定した。湾外から来遊する「のれそれ」の量を管理することは困難であるが、それらが成長した小型魚を保護し加入量あたりの漁獲量の増加を目標とすれば管理効果が期待できる。秋冬漁期の小型魚の保護、再放流は成長管理として有効である。

管理基準	Limit/Target	F値	漁獲割合(%)	2016年ABC(トン)
1.0・Cave3-yr・1.07	Limit	-	-	400
	Target	-	-	320

- Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量
- Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の増大または維持が期待される漁獲量
- ABC算定規則2-1)により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ 、 $ABC_{target} = ABC_{limit} \cdot \alpha$ で計算した
- δ_1 には1.0(中位水準における推奨値)、 α には標準値0.8を用いた
- γ_1 (1.07)は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/l)$ で計算した。kは標準値の1.0とし、bとlは資源量指標値の傾きと平均値(2012～2014年)である
- CtはCave3-yr(2012～2014年の平均漁獲量)

資源評価のまとめ

- 小底のマアナゴCPUEから資源状態を判断した
- 水準は中位、動向は横ばい

管理方策のまとめ

- 2016年ABClimitは伊勢・三河湾内のマアナゴ漁獲量として400トン
- 秋冬漁期の小型魚の保護や再放流が有効

執筆者: 黒木洋明・鴨志田正晃

資源評価は毎年更新されます。